

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372400495		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	ふれあいハウス 1		
所在地	愛知県半田市乙川吉野町67		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成25年1月15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

設置主体が医療法人というメリットをいかし、健康管理がしっかり行われており、身体の異常への対応がすみやかにできている。  
 専門職による機能訓練も定期的に行われ、残存能力の維持につとめている。  
 介護度の高い方の入所が多いが、看取りに対しても積極的に家族の要望を確認しながら対応できている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成24年11月13日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設して10年が経ち、1Fにデイサービスを併設している当ホームの建物の中に入ると、落ち着いた雰囲気の中にも明るい活発な空気が流れている。職員が内部・外部の研修に意欲的に参加することで確実に意識の向上に繋がっており、利用者も安定した穏やかな生活を送っている様子が窺える。併設のデイサービスの利用者とは、ボランティア来訪時に交流する機会もあり、職員もデイサービスとグループホームと合同で会議を行うことで法人の持つ多機能性を活かして皆で関わって行こうとする意識は高い。看取りを含め、医療・機能訓練の面でも体制が整っていることで家族の信頼も厚い。商業地域で地域の人々の協力が得難い条件の中でも、各階のリーダーを中心に利用者の為に来年に向けてレクリエーションを重視した様々な挑戦を試みようとして、常に前向きな姿勢を崩さず業務に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見えるところ(フロア)に理念を掲示して、意識づけに努めている。	理念を各階のリビングに掲示し、毎朝復唱すると共に会議でも振り返ることで職員の意識付けをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員の方へ声かけし、定期的に関催している運営推進会議に参加していただいている。 地区の組に入れていただき情報を共有するよう努めている。	地域の班に入り市報が届くことで情報の共有が出来ている。小学生の現場体験やボランティアの受け入れも継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員を通じてグループホームへの理解をいただくようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やホームを取り巻く関係者に多く参加していただき、話し合った内容を職員間で共有し、日々のサービスに反映させるように努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。ホームの状況報告・行事報告をする他、様々な議案が話し合われ、それらを職員間で共有しサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	こまめに連絡を取り、ホームの状況について理解してもらうよう努めている。 半田市主催の在宅ケア推進地域連絡協議会へ出席し交流をはかっている。	市役所へは月1回介護保険課に出向いており、市役所の方からも定期的に案内や情報が届く等連携が出来ている。又、半田市主催の勉強会や知多中南部の研究会へも出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交通量が多く、不審者の侵入が以前あった為、玄関の施錠は家族の同意を得て夕刻より行っているが、勉強会の開催等を通して身体拘束への理解を深めるようにしている。	立地条件による夕刻以降の玄関の施錠については利用者家族の了承を得ている。法人研修が2ヶ月に一度あり虐待を含め身体拘束についての勉強をする機会がある。外部の研修へも参加し職員全体で意識の共有と実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がどのようなことをいうのかを含めて理解するとともに防ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修で学ぶ機会があったり、ホーム入居者で実際に制度を利用している方もいるので理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすく一方的にならないよう説明し、十分理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを取ったり、こまめに声を掛けて要望や意見を伺うようにしている。	家族アンケートを行ったり家族の訪問時や行事の際にこまめに声をかけ、意見・要望が話し易い雰囲気作りに努めている。出された意見・要望には真摯に対応し、それらを職員間で共有し日々のケアに反映させる様心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議やカンファレンスを開いて提案する機会を設けている。	週1回のカンファレンスや月1回のハウス会議の場以外でも日常的に職員の意見や提案が出されている。最近ではリーダーの提案でリビングにリクライニングの椅子が購入されたり、車椅子でも入れるこたつの工夫等もあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度、個々に目標の設定・振り返りを行い、個別面接を通して個々の状況の把握に努めている。法人内のほかのGHの責任者と環境の整備についても確認しあっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の開催があり、積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流の機会が定期的に行われ、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族も含めて入居前に関わっていた方から(サービス提供者)情報を把握したり、しっかり関わった職員の情報を共有することで本人の不安や要望をキャッチするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話やすい雰囲気作りを心がけ、分かりやすく疑問にお答え出来るようにしている。こまめなお声掛けに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話をよく聞き、何が今必要なのか幅広く情報を発信して選択肢を提示させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の心身の状態をしっかり把握し、過剰介護にならないように努め、出来ない部分のお手伝いをさせていただくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な面会や家族会への参加を声かけして、家族の方に今の状況をお伝えするように努め、お互いの理解を深めるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設しているデイサービスの利用者の昔からのなじみの方や、友人と交流していただいている。 面会時間や外出は規制せず自由に出入り出来るようにしている。	知人が定期的に訪ねて来たり、孫が会いに来たり、親戚が差し入れを持って来ることもある。又、家族が来て居室で一緒にお弁当を食べたり外食に出かけたりする機会もあり、馴染みの関係が途切れない様に支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながらの声かけをして席や関わる機会を持っていただき、互いに理解出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や訪問して気軽に相談していただけるように努めている。 また退所後の方をとりまく専門職に様子を伺うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機会あるごとに本人や家族から希望や要望を聞き取るように努め、職員間で定期的に検討している。	日頃から訴えのある人とは話しをして思いや希望を聞いている。困難な場合は、寄り添う時間を設け、意向を探り出すよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や本人を取り巻いていた関係者から情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がきめ細かく観察し、その情報を職員間で共有出来るように努めている。定期的なカンファレンスで検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは半年ごとに行っている。 担当制をしいて“個”をしっかり把握した上で、ケアプランの立案を計画作成者で行っている。状況の変化があった場合は、その都度見直しをしている。	一週間ごとにカンファレンスを行ない、家族や本人、職員などの意見を聞き、それらを反映してケアプランの作成を行なっている。家族からもプランについてわかりやすく説明して、話し合っているとのアンケート結果が出されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことも記録に残し、内容の確認や情報の共有に努めるよう日々のカンファレンスでも確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの把握に努め柔軟に幅広く考えるよう関係職種と連携を取って取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について把握するように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の状態の把握に努め、医療従事者とも密に連携を取り合い、家族・本人に適切に相談説明に努めている。	かかりつけ医の往診には看護師とスタッフが付き添い、情報の共有をしている。専門医へは家族が連れ添っている。かかりつけ医と専門医との連携は看護師が連絡して状態など伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護職が相談に乗れる状況にあり、支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは密に連絡を取り合える関係が構築されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については入居時も含め、家族会や運営推進会議等でも話し合う機会を持ち、ハウスでの取り組みに理解を深めていただくようにしており、重症化された場合はその都度医師・看護職からも意向の確認にきめ細かく当たらせていただいている。	職員は看取りを経験することによって、急変時の対応が速やかに出来るようになった。ターミナルケアを意識を持って最期まで関わり、その都度反省をして、次回に活かすようにしている。外部のターミナル研修にも出席している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や講習に参加し、対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は訓練を行っている。 災害時対応できる物品も備蓄している。	消防署立会いの下、春と秋に避難訓練を行ない、おにぎりやすいとんを作り訓練の後に食べている。当ホームは災害時の避難場所に指定されている。	運営推進会議で地区の防災訓練に参加してはどうかと意見があり、次回には検討して参加されることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お互いに注意しあいながら対応のあり方については配慮しているとともに、接遇などの関わり方の研修に参加している。	プライバシー保護や個人情報保護については、内部研修による取組などで周知徹底を図っている。また、声の大きさや言葉使いなど利用者の状態に合うよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	折に触れ本人の言いたいこと言わんとされていることを聞き取れるように観察を密にしてかわりを持つ時間を持てるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れや大筋のルールに沿って、一人一人の状況に添えるように努力はしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声をかけながら希望を確認して支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の何が出来るのかの状況も含めて、出来る部分でのお手伝いをしていただき、手作りおやつや行事食作りに参加していただいている。フロアで炊飯することで食への関心を持てるように努めている。	食事は法人で作られるが、ご飯はホームで炊き食欲を高めるよう努めている。家族会では手作りの食事を作って、みんなで食べている。また、外食は回転寿司やステーキ屋等へ家族の協力の下、出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給時や食事の摂取の状況をきめ細かく観察し、必要に応じて支援できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が声をかけあい、ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々の排泄パターンを把握して対応している。 出来る限りトイレでの排泄を介助している。	自立の人は見守りをしながら対応している。 夜間はポータブルを使用したり、トイレに誘導したり、パット交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態の個々の確認をしながら、必要な支援に努めている。 看護職や栄養士とも適時相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大筋の入浴日はきめられているが、状況により個々に対応できている。	機械浴の人は1Fのデイサービスで入浴している。個浴の人は2、3Fのお風呂を使用している。入浴を拒まれる人には言葉かけを工夫したり、家族にも声をかけてもらうなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みの夜具をもって来ていただいたり、休める環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職や薬剤師とも連携をとりながら理解を深める努力をして服薬介助には慎重にかかわり、支援できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態やニーズを把握することに努め、職員間での情報の共有をはかり、適切な支援が出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣のショッピングセンターや喫茶や買い物に出かけるようにしている。 ご家族と共に出かけられる方もいらっしゃる。	近隣への散歩や買物、外食、春と秋の遠足など家族の協力の下、外出支援を行なっている。また、1Fのデイサービスでカラオケのレクリエーションを行なっているの、好きな人は1Fへ行き、楽しんでいる。	今後は職員同士の話し合いにより1ヶ月に1回外出する機会を設ける予定であるので、定期的となることを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフと共に外出時は支払ったり使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が必要時は見守りながらかけていただいたり、書簡のやり取りも自由にしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて雰囲気作りに努めている。	リビングには利用者の顔写真とプロフィールが貼ってあったり、行事のときの写真や季節の壁飾りを飾って、楽しい雰囲気である。利用者のロボットも座っていて、和める雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろいで過ごしていただけるような場を作るように努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て家族の写真や使い慣れた自分の私物も持ち込まれている。	電気カーペットやリクライニングのソファを持ち込み、家族の協力で過ごし易い居室作りをしている。テレビや家族の写真や雑誌も居室に置き、好きな時間を居室で過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に整理整頓に努めながら職員が見守れる状況作りにして過剰介護にならないよう配慮している。職員間で定期的な話し合いに努めて一人一人把握をしっかりと出来るように努力している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2372400495
事業所名	グループホーム ふれあいハウス

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	市報が届くことで半田市の情報が分かり、それらを職員で共有している。地域の乙川小学校5年生が年に2回現場体験に訪れて利用者と一緒にトランプやゲームをして賑やかに過ごしメッセージをもらう等して利用者に喜ばれている。乙川のお祭りはホームの前の駐車場から山車が出発する様子を見学した。ボランティアも従来の活け花教室・陶芸教室・朗読教室等継続しており、併設の1Fデイサービスの利用者と一緒に楽しむ機会も多い。来年は地域の消防訓練に職員が参加することを検討している。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催されており、半田市役所職員・亀崎福祉センター施設長・地域包括支援センター職員・民生委員・利用者家族・ホーム職員等の参加がある。半田市役所介護保険課から声をかけてもらい民生委員の参加が得られる様になったことで、地域とのパイプの役割を果たしてもらっている。会議ではホームの活動報告をする以外にも毎回様々な議案での意見交換が行われ、それらを職員間で共有し日々のサービスの向上に繋げている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市役所の介護保険課へ月1回出向き運営推進会議の議事録や案内を持参する他、保健所を含め先方からも定期的に案内や情報・アンケート等が届いており、連携が出来ている。又、管理者が3ヶ月に一度半田市主催の在宅ケア推進地域連絡協議会へ出席することで様々な事例検討の勉強内容や情報を持ち帰り職員に伝達している。2ヶ月に一度の知多南部研究会での勉強会へは併設のデイサービスの職員を含め数人単位で参加し、その中での内容を会議の際にフィードバックしている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	「ふれあい新聞」を3ヶ月に一度利用者家族に送付し、利用者の様子やホームの近況報告・職員の新人紹介等がなされている。家族会は年2回、春と秋に開催され利用者・利用者家族・職員と一緒に食事やおやつを食べている。年に1回家族アンケートを実施したり利用者家族にはホームへの訪問時や行事の際に直接顔を見て話す機会を設けており、話しやすい雰囲気作りを努めている。家族からは運営推進会議の場でも多くの意見が出されている。出された意見・要望には真摯に対応し、それらを職員間で共有すると同時に日々の業務に反映させている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。